

2022年度 日本工学院専門学校											
デザイン科／プロダクトデザイン専攻											
デザイン実習 1 B											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	60	単位	2
担当教員	堀越 拓水			実務経験	有	職種	デザイナー				
担当教員紹介											
彫金家、ジュエリーデザイナー、ドイツ国立美術アカデミー卒業後、国内国外で作品発表、空間デザインやインテリアデザインも手掛ける。											
授業概要											
この授業では、教科書の内容に沿ってスケッチワークを進め、立体構成においても講師から解説を受けます。スケッチ道具の使い方、立体構成の道具説明を受けてから描き方、構成の仕方を段階的に学び、基礎のスケッチワーク。立体構成を実習する授業です。講師からのデモンストレーションから学びを深め学生のプロダクトデザインの「デザインスケッチワーク」「立体構成」を育成していく。この授業に主体的に参加する学生が技術力、表現力を向上し、自分自身で実践し活用するように目指すこと。											
到達目標											
この科目では、学生がプロダクトデザインの基礎スケッチワークと立体構成を学びます。造形の理解力、表現力、コミュニケーション能力を理解し学ぶ事で、社会で活躍する為に必要な技術力と知識を向上させること、課題をこなす事で段階的に理解しスキルを向上してデザインスケッチワーク、立体構成が出来るようになる事を目標にしている。											
授業方法											
この授業ではスケッチワークを教科書の内容に沿って学び。立体構成では講師から解説を受け、出題される課題を制作して、段階的にモデリング技量を向上する授業です。											
成績評価方法											
プレゼン	20%	制作物の発表方法、内容について評価する									
課題完成度	40%	提出課題完成度を総合的に評価する									
リサーチ	20%	制作準備と過程を評価する									
平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
履修上の注意											
学生にプロダクトデザインに触れてもらう機会になります。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。アイデアコンセプト、ユーザービリティを知り、今後、実習授業時で求められる提案モデルが製作ができるベースになる実習になります。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者はこの科目合格することができない。											
教科書教材											
教科書、授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	立方体、円柱 3点通し図法の理解と確認 （パース）										
第2回	立方体で構成された椅子										
第3回	相貫する形態のドライヤー										
第4回	電気ケトル、キャリングケース										
第5回	デジタルカメラ、枝葉粉碎機										

2022年度 日本工学院専門学校	
デザイン科/プロダクトデザイン専攻	
デザイン実習 1 B	
第6回	ワイヤーアクセサリー「2次元作品」
第7回	ワイヤー クリップ 文具「2次元作品」
第8回	ワイヤーアクセサリー「3次元作品」
第9回	ワイヤーアクセサリー「3次元作品」
第10回	メタルプレートのアクセサリー「錫」1
第11回	メタルプレートのアクセサリー「錫」2
第12回	異素材の組み合わせアクセサリー 1
第13回	異素材の組み合わせアクセサリー 2
第14回	作品撮影 プレゼン用資料構成
第15回	プレゼンテーション講評会